

錦織 紀子さん（島根県雲南市出身）
2018年度3次隊 青年海外協力隊
派遣国：コスタリカ 職種：コミュニティ開発
2019年12月1日（日）中国新聞 SELECT 掲載



※中国新聞社の許諾を得ています

住民の生活改善後押し

「プラビダ!」。直訳すると「純粋な人生」という意味の一言が、この国ではさまざまな意味で使われている。「すてきだね、元気だよ、ありがとう、バイバイ」。時には出会い頭のあいさつとしても使われ、一日を通して頻繁に耳にする。

私は今、中米にあるコスタリカという国に住んでいる。国土面積は日本の約7分の1と小さいが、全世界の動植物種の5%が存在し、国土の4分の1以上が国立公園や自然保護区となっている。そんな自然豊かな美しい国に国際協力機構（JICA）青年海外協力隊として派遣され約10カ月がたった。



キャプション：
住民が一日の行動を時系列で書き出し、改善できるポイントを発表する。

この国では、戦後の日本で実践された生活改善普及事業をモデルにした生活改善活動が取り組まれている。私は農村開発庁パケラ支部に配属され、現地のファシリテーターと共に生活改善グループへの寄り添い活動を行っている。住民が主体となり、生活の中で小さな改善を積み重ねる。行政や外部支援に頼らなくても自分たちの知恵と工夫で課題を解決し、生活の質をより良いものにする。こうした体験を通じ、支援慣れで失われた、住民が本来持つ能力を引き出す手伝いをしている。

対話を基に住民に気付きを促すファシリテーションを提供できることが理想だが、現実にはスペイン語に苦勞し、また人の考えと行動に変化を起こすことの難しさを痛感している。住民の主体性をどう伸ばしていくかが課題となっており、そのためのファシリテーション手法を任期の2年を通して確立していきたい。